



多様性と個を活かせる職場で

活躍している 女性リーダーたち



About

3月8日は国際女性デーです。
世界中の女性の素晴らしい活躍と勇気ある行動を称え、
ジェンダー平等を呼びかける日です。

今年のテーマは、#BreakTheBias（偏見を打ち破れ）。
多様性を受け入れ、誰もが公平にチャレンジできる、包摂的な世界。
固定観念に縛られたあるべき姿ではなく、私はこうなりたいという、
一人ひとりの個性を尊重する世界の実現のために、
皆が力を合わせれば、#BreakTheBias（偏見を打ち破れ）を
実現できるのです。

アリババ社員たちは毎年、世界各国で、国際女性デーを祝います。
今年は、その一環として、アリババで活躍している女性リーダーの言葉
をご紹介します。
一人でも多くの女性の励みになることを願っています。



 **Alibaba.com**

グローバル B2B 事業部
チームリーダー

李 泰 敏 (イ・テミン)

『人の心を動かすリーダーが理想』

目標設定と達成を楽しむ

新卒でアリババに入社し、今年4月で10年目になります。現在はグローバルB2B事業部で6人チームのリーダーとして、日本の中小企業の海外進出・売上獲得の支援をしています。

私は具体的な目標を決め、努力して達成し、公正に評価されることが好きです。**チームリーダーになってからは、個人の実績よりも、部下や後輩の成長により大きな喜びを感じるようになりました。**

私のチームに入ったことでメンバーに良い変化が生まれたと、評価されることが嬉しいです。

2年前にリーダーになったばかりのときは葛藤もありました。

目標達成のためには厳しいことを伝えることも必要ですが、厳しすぎるとついて来られなくなります。チームの方針が正しい場合でも、個人の目標とマッチしていないと、すれ違いが生じ、チームを束ねるのは一筋縄ではいかないと感じました。

その度に私は、かつての新卒のころ「ついて行きたい」と思った先輩を思い出し、彼女の真似をすることから一つひとつの課題を乗り越えることができました。お客様の成功のために率直に意見を述べ尽力し、非があれば素直に認めて謝罪できる、**心を動かせる顧客ファースト精神**です。私はこれこそ成果だけでは叶わない、心を動かせるリーダーの素質だと感じています。

仕事や人生にはうまく行かないことがあります。目の前のハードルをどう乗り越えるかをとことん考え、実行して達成できた方が楽しいですし、**失敗したとしてもそれを続けることで得られる成長はかけがえのない財産**になるのではないのでしょうか。



管理部 人事・総務
チームリーダー /
二児の母

伊藤 久美
(イトウ・クミ)

一緒に楽しく働ける

多様性に富んだ職場

生産性向上で育児と仕事のバランス確立

アリババジャパンで人事・総務のチームリーダーをしています。営業職が長かったのですが、育児休業から復職後、総務を経て最近、現在のポジションに就きました。小3と保育園年長の子どもがおり、1人目の出産後は定時に仕事が終わらず、保育園のお迎えに遅れる毎日でしたが、同じチームの方々が『お母さん』が一番大事な仕事だから』と積極的に協力してくれ、何とか両立できました。とは言え、子どもと一緒にいる時間を長く持ちたいと思いつつも、会社から認めてもらえる実績も出したいと焦り、葛藤していました。幸い、上司が「決められた時間の中でどれだけ成果を出せたか」を重視する方だったので、次第に生産性を高めればよいのだと頭を切り替えられました。

今は一緒に働く女性リーダーからよい刺激を受け、業務の仕分けで効率を改善し、時間を有効活用できているので心に余裕があります。高い成果を求められますが、「質とスピード」を高めることから大きな達成感を得られるので、どんな小さな仕事でも十分に調査したうえで、迅速で適切な判断を心掛けています。プライベートでも家事や育児が年々増えている時期ではありますが、家族と全力で楽しむ時間も作れています。

また、アリババ入社以前は女性の少ない職場で営業をしていました。男性ばかりの職場で自分の強みを探した結果、心遣いや、細かいことに気付ける長所を営業で生かすことで、トップクラスの成果を残す事ができました。アリババは女性社員が多く、多様性に富んでいて、魅力があり、一緒に働く楽しさを日々感じています。



Lazada Japan

ビジネス・ディベロプメント ヘッド

Head of Business Development,
Lazada Japan

モウ・アナン

Meng Anan

『プロフェッショナルに

性別・国籍・年齢は関係ない』

信頼関係構築が目標達成の近道

アリババグループである東南アジア最大の越境ECプラットフォーム「Lazada」の日本での知名度向上と日本企業誘致を1人で担当しています。

10代で来日し、新卒で大手日本企業に入社しました。安定していて居心地もよかったのですが、米国留学時に、自分が日本社会に溶け込もうと努力するあまり、個性を消していたと気づきました。私の母はゼロから事業を立ち上げた経営者です。私も人の役に立ちたいと考え、リスクを取って会社を辞めて起業し、それからずっと、アクセルを踏み続けています。

仕事をするなら1位になりたいと考えています。米系コンサルティング会社に勤務していたとき、6人のチームで私は唯一の女性であり、唯一の外国人でした。非常に多忙な職場で、他のメンバーは体調不良で遅刻することもありましたが、私はどんな時もメイクをして、ハイヒールを履いて、元気に時間通りに出社しました。**プロフェッショナルに性別・国籍・年齢は関係ありません。**

新卒で入社した会社のエース営業マンだった上司に言われた「物売る前に、自分を売る」という言葉を大事にしています。日頃から会社のKPIよりもお客様の利益のために何ができるかを優先し、行動しています。お客様に認めてもらい、信頼関係ができれば、KPIは後からついてきます。**毎日小さな目標を持つことも心掛けています。**仕事は辛いことも多いですが、小さな目標を達成することで、辛さを楽しさに変えられます。全ては自分次第です。



アリババ株式会社

取締役 /

一児の母

蔣 微 筱

(ジャン・ウェイシャオ)

『ポジティブな議論で

多様性を力に変える』

自分軸を大切に

アリババ株式会社の取締役として、日本におけるデジタル決済の推進に取り組むとともに、Eコマース、クラウド、物流、決済など幅広い事業の連携を深めることで、お客様によりよいサービスを提供できるよう支援しています。

私は日本企業でキャリアをスタートし、日本の中小企業の海外進出をサポートした後、米国企業を経てアリババに移りました。米国企業での仕事は、多様性について真剣に考える機会になりました。価値観が多様な組織では議論がよく起きます。私は人と争うことを避ける性格ですが、自分の考えをしっかりと主張しないと何も進みません。この経験から **多様性を力に変え、物事を進めるため、「ポジティブな議論」を心掛ける** ようになりました。まず相手を受け入れ、その上でお互いのプラスになるよう考えながら折り合いをつけていくのです。

子どもが生まれてからは、仕事でも「小さな幸せ」や充実感を感じるようになりました。例えば、若い社員が3カ月前と比べて成長したと気づいたとき、自分の言動によりポジティブな変化が起きたときです。一つひとつの変化は小さくても、積み重なって大きな成果につながるのだと、育児から学びました。

女性は、ライフステージによって優先順位が変化すること、マルチタスクを迫られる時期もあります。「こうあるべき」という義務感に縛られず、心に余裕を持って気楽に取り組んだら良いと思います。周りからの評価を過剰に気にしたり、焦ったりする必要もありません。**「自分がどうしたいのか」という自分軸を大切にし、人生を満喫してほしいです。**

